

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



大田区

海苔づくりの歴史・文化の 伝承と創造の場

「大森 海苔のふるさと館」

大田区・平和の森公園内にある「大森 海苔のふるさと館」は、江戸時代中頃から昭和30年代にかけて、大田区沿岸部で盛んに行われていた「海苔づくり」の歴史と文化を、今そして未来へと伝える文化施設です。

海苔のふるさと文化を伝承

大田区の大森地域では、江戸時代の中頃から海苔の養殖が始まり、ここから全国各地へ海苔生産方法が伝えられました。1963年に東京都沿岸部の埋立計画に応じるため海苔の生産を終了するまでの永きにわたり、海苔生産の先駆的役割を果たしてきた大田区は、「海苔のふるさと」といえる地域です。

「大森 海苔のふるさと館」は、海苔養殖の歴史と生活文化の伝承、国指定文化財の保存と展示活用を大きな役割として、2008年に開館しました。

国指定重要文化財を数多く展示

1階は「海苔のまち 大森の記憶」、2階は「海苔づくりの1年と道具」というテーマで展示を行なっています。展示の基礎となっている「大森及び周辺地域の海苔生産用具」は、1993年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。これは、「大森海苔漁業資材保存会」が収集し、大田区立郷土博物館が引き継いだ生産用具に、大森・糎谷・羽田地区で収集した資料を加えたものです。養殖・採取・加工・海苔船及び船用具など9分野881点に及ぶ資料は、乾海苔生産の発祥地・先進地としての古い形式を残す用具から、機械導入の初期までのものを網羅しています。

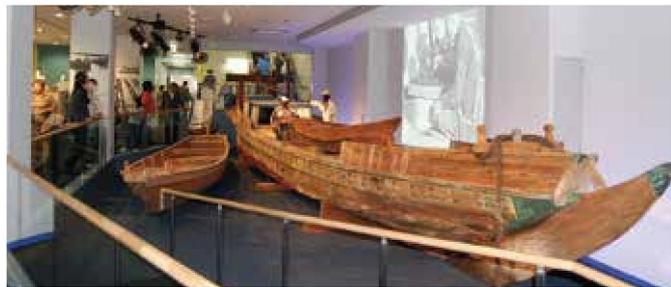
また、海苔養殖風景の再現と技術の継承を目的として、海苔づくりを支えてきた伝統の手わざを体験するイベントも、常時開催しています。

海苔づくりを伝え続けたい

海苔づくりの技術は、元海苔生産者による協力者会が中心となって伝承してきましたが、高齢化が進み、メンバーが減少しつつあります。現在は、当館職員とともに、ボランティアも伝承を担っていますが、海苔づくりの歴史や技術をどのように正確に伝えていくのが、今後の課題となっています。

海苔の生産が終了して60年経つ大森地区には、今もなお多くの海苔問屋があり海苔流通業の重要な拠点の1つとなっています。

全国でもたいへん特徴的な文化施設である当館を訪れ、大田区沿岸地域の海苔づくりの歴史や技術にふれてみてください。



↑1階展示:1958年に造船された「海苔船」(写真右側)



↑2階展示:さまざまなテーマで海苔の文化を紹介



↑施設外観と海苔乾かしの作業



↑海苔生育の作業
(竹ヒビ建て・10月)



↑海苔生育の作業
(海苔採り・1～2月)

企画展「海苔養殖の一年と冬の一日」

会期:11月22日(火)～2023年4月16日(日)

会場:2階企画展示ギャラリー

内容:往時の海苔養殖の作業に関する写真を展示。一年間の作業の流れとともに、冬の収穫期の一日の作業も解説します。

大田区立大森 海苔のふるさと館

所在地 大田区平和の森公園2-2
開館時間 9:00～17:00(6～8月は19:00)
休館日 第3月曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始(12/29～1/3)、
館内消毒のため臨時休館あり
入館料 無料
アクセス 京浜急行線平和島駅より徒歩15分
お問い合わせ 03-5471-0333

